

チューリッヒの女性との友好交流

—ジュネーブ国際連合欧州本部見学を通じて日本が学ぶもの—

2007.6.17~23
海外研修KYOのあけぼの会
京都商工会議所女性会

チューリッヒ到着
スイスの玄関口として知られていますチューリッヒ国際空港に到着。全員元気でバスに乗り換え市内のホテルへ向かいます。経済の中心を担う都市でありながらリマト川沿いには歴史豊かな建造物や緑豊かな自然美に「すばらしい」と見とれながら、ここがチューリッヒの街なのです。

ホテル到着
玄関にはイボンヌさんのお出迎えです。イボンヌさんは「本当にうれい！」「皆さんにスイスでお会いできる日を楽しみにしていました」と心からの思いを私達全員に華やかなお花を1本1本お渡し下さいました。私達は思わずお花の美しさとイボンヌさんの真心に感激いたしました。

オルガンコンサート
イボンヌさんのご紹介でフラミンゴ教会へ出かけました。ジャガールのステンドグラス他さまざまなステンドグラスを見学した後、説明付きのパイプオルガンの演奏を聞かせていただくという贅沢なことであります。音と美の調和の美しさから張りつめた空気が響き渡る音色の美でこそが作曲の真えまっさら祈りになるのでしょう。

交流会
イボンヌさんのお宅訪問での本番交流会友好研修会となりました。来日された時から「私の家へ来て下さい」と、その日がやってきました。温かいおもてなしは日本愛好家ならではのお部屋のインテリア等々に日本の特に京都の文化が見られました。また、私達を待っていてお茶のお手前もありなやかな中にも社会環境、政治、教育、人権問題、福祉における交流研修交流会が行われました。総括的に私達の地位向上に向けての一層の前進となりました。

見学会 (都市)
朝市は湖畔の公園で毎火曜日 A.M.5:00~11:00 まで開かれています。お花、果物、野菜、チーズ、クッキー等、地元の特産品です。季節感が溢れ雰囲気も楽しく特に色鮮やかで「きれい」「食べたい」「会話が出来る!」そんな思いのひとつとありました。

見学会 (病院)
100年前には女性が医学を修めながら病院で働くことが許されず、それならば女性が働ける病院を造ろうと女性達が設立した病院で現在は国立病院となっています。病院長も若い女性院長のもとに、経営努力をしながら向上心を高め患者とコミュニケーションをとりながらチームワークも大切にされているとのことでした。院内は天窓が多く取入れ自然採光がなされ、明るい集中治療室、未熟児室等見学いたしました。驚きだったことは、どこを歩いても病院独特の臭いが一切しなかったこと、先生方が明るく雰囲気も良かったことでした。

見学会 (老人ホーム)
病院と併設されている観が多くの学生の中を散歩されている姿は絵になる光景でした。月10万円程度で回廊を閉ざす入居費とのこと「私達もここへ来たい」との声がかえってくるほど、羨ましい思いがいたしました。

日本語ではスイス連邦と表記します。準州を含めた26州に分かれており、首都はベルン。

学校視察
校内は木々の緑に被れお花が咲き出す時期の学校です。子供たちの笑顔と伸びた様子が印象的でした。授業風景は短時間で私達の目的に合わせたカリキュラムが日本のことを取り入れながら歌や楽器演奏もありました。先生の指導方法の違いで、個性的な雰囲気ははつきり出ているように思えました。楽しむ勉強が出来る場づくりや何より子供たちの自主尊重、自己責任の基盤による教育がなされていることに感銘いたしました。特に日本の着物について飛び入りの私達の参画にも思いがけない体験学習となり喜んでいただけました。

クルーズに乗っての晩餐会
チューリッヒ湖からの周囲の眺めは緑の丘陵地帯でその中にお家が点在する絶景の湖でのクルーズであります。そして交流会最後の晩餐会です。イボンヌさんの若奥様のご挨拶がありました。「秋のスイスはとても美しい時期であります。又、家族でのお誕生会もあるに母が日本へ行くのが二日間お休んで分りました。」「それは母を良くしてくださるお友達が沢山おられることを知ったからです。二日間一緒に行動して下さりお疲れでしょう心あたらない思いの伝わる言葉をいただきました。私達の会長の挨拶もイボンヌさんへの良くして下さったことを私達の思いを込めてお礼を言っておきました。」「感謝致します」の言葉が表現出来ない程の感情が全身から溢れんばかりに感じられ会長以上に胸一杯に思っている私達も涙が下りました。美しいとときどき日が湖面に降り注ぎすべてが景色に輝きました。船の甲板で腕を組み大きな声で「夕やけこぼれ」の歌から始まり文部唱歌を高くならそよ風と共に「幸せ一杯」の歌をこらにさせていただきました。

旧市街地見学
高い城壁に囲まれた旧市街は紀元前からの歴史であり細い道の上り下りが非常に多くその通りに面する家並みもずいぶん古い様子に歴史の深さを感じることが出来ます。中でもサンピエール大聖堂、バステヨン公園の宗教改革の碑など見学の最中この街のフェスティバル(祭り)に遭遇し市民の楽しそうな集いを見ながらこの街を後に旅の終りとなりました。

ジュネーブ
国際機関が200以上あるジュネーブが最後の研修地です。レマン湖には100mの高さのジェット大噴水がありそのほとりに国際連合ヨーロッパ本部や世界の重要機関の本部が集結しています。行き交う人々も人種が多岐にわたる国際都市となっていました。私達は国際連合ヨーロッパ本部を見学することが出来ました。特に総会議室正面の国際連合本部に飛び込んでくる半円形座席や天井の幾何学模様照明等、入室後説明を受けながら緊張感が漂ってきます。大建築物の中を歩いているうちになぜか世界観でいる人々の渦の中に入れていただいている様な思いがあります。そして戦争のない世界、貧困、病気、経済、環境等、平和の時代になることを望んでやみませんでした。

インターラーケン
ユングフラウ地方への玄関口で名の由来にもなっているようにトゥーン湖とプリエンツ湖の間に位置し名前に由来した街の宿泊となりました。「さあヨーロッパ最高所の鉄道駅(3,454m)をめざし出発です。」「ユングフラウ周辺は世界自然遺産に認定されています。アイグラーメヒ、ユングフラウ3名山がひとつの間に垣間見ることが出来るにアルプス山脈にやって来たのです。そこからアレッチ氷河はトンネル鉄道そして氷河の中を一気にエレベーターで氷河の氷の彫刻通路を抜けると雄大な氷河が間近に見えた時は感動的でした。車窓からはハイジの物語そのままのどかな草食牛、清らかな小川、満ちた緑のパンoramaでした。

観光
アーレ川を渡りベルンの街を通り抜けルツェルンへ来ました。美しい湖と山に連なる山々そして中世の町並みを見ながら散策(ルイ王家を守り戦死した僧侶を祀った聖母の像の前では皆さんポーズを取った写真です。次に14世紀初期の屋根付き木造橋を渡る「キョロキョロ」屋敷が描かれた建物(本当みないなうその橋)中世の井戸等旧市街地の戦いでこの道が中世を垣間見ることが出来ました。

海外研修KYOのあけぼの会 スイスの旅に参加して

中原 康子
無事帰国して早、一週間が過ぎ、やっと疲れがとれて来たようです。今スイスの雄大な山々の地図を改めて見て思い出にふけっているところです。3,571mというユングフラウヨットトップオブヨーロッパに立った時の感動、登山電車の中から眺める百万ドルの風景が忘れられません。ビデオも何回も見て楽しんでおります。

皆様と楽しく熊野古道に次いでこのスイス旅行に参加させて頂き感謝しております。そして普通では味わえない特別プログラムではイボンヌ様や若奥様とのすばらしい交流がもて普通の常識しかもっていなかった私にとってスイスのお国のことが大へんよくわかり勉強になりました。また小学校訪問ではあどけない可愛い子供達にカメラを向けると楽しくポーズをとってくれました。教室では授業内容がそれぞれ先生によって個性的でした。病院訪問、老人ホームのお話も意義深いものでした。何と云っても私は初めて見るアルプスの雄々しい姿に魅せられました。残念ながら天候が悪く全景が見えなかったのですが時々その姿を現してく

れました。クライネシャイデックではアイガーの頂上も少しの間見えカメラに収めることが出来ました。そして可愛い高山植物の数々、広々とした高原の風景には本当にゆったりして心が広がります。自然が大好きな私にとって最高でした。ジュネーブも一度行ってみたいところでした。美しいレマン湖のほとりの国連ヨーロッパ本部を見学することが出来、国際色豊かな町の様子も見聞することが出来ました。価値ある旅でした。後になりましたが会長様初め役員の方々には心より御礼申し上げます。

憧れの～ スイスに行ける!

伊藤 悠美子
ご近所であり親戚の伊藤さんに誘って頂き、只々“スイス”に行ける! 憧れの～ 喜びだけで参加申し込みしましたが旅のしおりを読むにつれ私みたいな者がこの様な高度な方々の集まり、しかもスイスの名士の方々との交流会などとても場違いな気持ちになり本当に参加させて頂いていいのだろうか? 疑問を抱いたまま出発～
でも現地のイボンヌさんの分け隔てない温かい歓迎を受

け、現地の女性の方々の頑張っておられる姿を目の当たりにし、世界が広がった感じになりました。日本とスイス、文化、宗教、歴史、教育、そして福祉その他色々な事の違い又類似点を学ばせてもらい感激致しました。女性の地位向上の為計り知れない重さがあるのを学びました。

又、インターラーケンの町の美しさ、雄大なアルプスユングラウヨットホでの氷河の中での見学、何もかも初めての事、感動の一言でした。ジュネーブの国際連合本部の見学等、この旅に参加させて頂き多くの方々との出会いとてもいい経験をさせて頂きました。

最後にこの旅行の行程、計画をお世話に成りました役員の方々に厚く感謝しこれからの自身の生き方向上に少しでも役に立てよう勉強して行きます。本当に皆様ありがとうございました。

大感激のスイス旅行

伊藤 篤子
スイスが共和国とは知っていたが、ヘルベチア共和国という本名があったとは知らなかった。また共和国の中には

それぞれドイツ語圏、フランス語圏、イタリア語圏、レイトロマン語圏が存在し、はっきりと言語や生活習慣の違う人達の集団が集って一つの国を形作っているとは、さらに驚きであった。ヨーロッパの中心にあり、フランスの隣りで、フランスナンバー1の車で、仕事に通っているという。四方海に囲まれている日本ではおよそ考えられないことで、陸続きの国の共存共栄ぶりを目のあたりにすることが出来た。

酸素量が薄くなっていく中を鉄道が氷の中まで連れて行ってくれた。氷河の上には立てなかったのは、とても残念だったが、雄大な氷河を眼下にしたのは想像を絶する迫力だった。今も眼をつむればスイスでの様々な風景が思い出される。いつまでも私の心から離れることはないだろう。

最後になったが、イボンヌさんのお陰で通常の観光旅行では、とても経験できないであろう色々な施設の見学もさせて頂けたことは、何よりも大きな収穫であったと思う。感謝の気持ち一杯である。